

よくがない(たつつあい話)

額田に「たつつあい」とい
う、とんち名人がいたそうなの。

むかし、たつつあいの
すむ村のとなりには、けち
で人づかいのあらいい金も
ちがいました。

広いはたけがあるのに、たがや
すものがたらん。はたらきもの
は、おらんかのう。

たつつあいがはたらき
ものだと聞いて、たのむ
ことにしました。



わしのところで はたらいて
くれんか。

よろこんで。

たつつあいはこころよ
くひきうけました。



金もちには、きゆうりよ
うをいくらにするか考
えました。

やすいお金で、しつ
かりと はたらいて
もらいたいものじゃ。



だんなさま、わしはほんの少
しでけっこうです。米を一日
目にひとつぶ、二日目に二つ
ぶ、三日目で四つぶと、倍に
ふやして、一月分でじゅうぶ
んです。



それでは、あしたからたのむ
ぞ。

一年はたらいて、
一月分のお金でよい
なんて、そんなに
やすくやとえるとは。



たつつあいは、いっし
ようけんめいはたらきつ
づけました。



やとって、よかったわい。

金もちには、おおよろこ
びしました。



一年がすぎ、きゆうり
ようをわたすときがきま
した。



はて、一月分とは、
どのくらいの米を
やったらよいのだ
ろう。

金もちは、どう計算し
たらよいかわかりませ
ん。そこで、てんざんし
に計算をたのみました。

※てんざんし
計算をする人。

だんなさま。たつあいに
らう米つぶの数は、※五おく
三千六百八十七万つぶでござ
います。



そ、そんなにたくさん。それ
では、ほかの人にもきゆうり
ようをはらえない。

※一しように六万つぶとす
ると、やく一三トン(一
三〇〇〇キログラム)。

金もちは、しはらいを
まってくれるよう、たつ
あいにたのみました。



たつあいよ。どうか、しは
らいをのばしてくれないか。

しかたがない。少しまってや
ろう。これにこりて、自分の
お金をふやすことばかり考
えるのは、やめることだ。

すまない。少しずつでも米
つぶはかならずせんぶわた
す。それで、かんべんして
おくれ。



こうして、たつあい
は、たくさんの米をいた
だきましたと。

「たつあい」とつたえられ
ている「大谷達才」のはか
(那珂市額田 引接寺)

